

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：平成 18 年度～平成 20 年度

課題番号：18720241

研究課題名 (和文) ポスト社会主義・エチオピアの土地政策と土地利用実践の再編過程に関する実証研究

研究課題名 (英文) Land Policy and Land-Use Practice in Post-Socialist Ethiopia

研究代表者 松村圭一郎 (MATSUMURA KEIICHIRO)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・助教

研究者番号：40402747

## 研究成果の概要

エチオピアの土地政策をめぐる文書資料からは、土地の私有化を求める議論がなされてきた一方で、その弊害を主張する議論も多く、コミュニティの管理を基本とした土地政策を進める穏健的な政策が支持されてきたことがわかった。また、アーカイブ調査からは、90年代後半から実施されている土地測量・土地登記といった土地政策が、50年代、60年代に進められてきた土地政策の延長線上にあることがわかった。90年代以降の土地利用実践に関する調査からは、低湿地部分に残されていた未利用地のほとんどが分割され、未利用の土地がほぼ消失したことがわかった。また、未利用地の消滅と人口増加という状況が、アラブ諸国への出稼ぎ増加につながっている可能性もみえてきた。3年間の研究をとおして、土地不足や人口増加、コーヒー栽培の不安定化などを背景に農村部から海外への出稼ぎが急増するなどグローバルな変化が起きている状況が明らかになった。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
18年度	1,200,000	0	1,200,000
19年度	1,100,000	0	1,100,000
20年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	210,000	3,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：ポスト社会主義、土地政策、土地所有、土地利用、エチオピア、土地不足、私有化政策、出稼ぎ

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、旧ソ連圏や東欧諸国をはじめ、社会主義体制にあった国々は、急激な体制移行を経験してきた。なかでも、近年、たび重なる食糧危機に見舞われているアフリカの旧社会主義国では、土地制度改革による

農業振興が最重要の政治課題として国際的な注目を集めている。本研究は、ポスト社会主義国家の体制移行に関する研究に対して、エチオピアの土地所有をめぐる複合的な再編過程を明らかにすることを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ポスト社会主義期エチオピアの最大の懸案となってきた土地所有体制について、国家の土地政策とローカル社会での土地利用実践とがどのような相互作用のなかで再編成されてきたのか、その過程を実証的に明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

おもに以下の3点の方法によって調査研究を行った。①アーカイブ史料館／大学図書館での行政文書調査の解読と分析、②土地行政機関へのインタビュー、③農村部での土地利用実践に関する現地調査と聞き取り調査。

## 4. 研究成果

3年間の研究によって、エチオピアの農村社会が、とくに90年代のコーヒー価格の乱高下を契機に、大きな変化を被ってきたことがわかってきた。とくに、土地利用実践という視点からみると、コーヒー価格の上昇にともなう耕作放棄の拡大と家計のコーヒー栽培への依存の高まりが、コーヒー価格の下落によって、大きな問題を引き起こしてきたことがわかった。その後、自給作物の耕作はふたたび開始されたものの、急速に増えた人口を養うだけの土地は確保できず、きわめて厳しい土地不足に見舞われている。そのなかで、若年女子の海外への出稼ぎという新たな事態もはじまっている。農村社会が、ますます「土地」という基本的な資源だけでは成り立たなくなっている実態がわかる。

グローバリゼーションの進展は、コーヒー価格の乱高下や海外への出稼ぎといった動きをとおして、エチオピアの農村社会を世界の（労働／穀物）市場に直結させるような変化を起こしている。現在のように未利用地がほぼ消失した状況では、今後、ますます農村社会が「農業」に依存できなくなる事態が進むことが予想される。とくに若年世帯を中心に、土地をもたず、あらたな土地を獲得したり、小作として耕作することもできない世帯が増えており、土地行政への不満も大きい。今後とも、調査を継続し、農村社会の直面する現代的な問題を分析する必要がある。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

松村圭一郎 2009 「＜関係＞を可視化する－エチオピア農村社会における共同性のリア

リティ－」、『文化人類学』、73巻4号、510-534頁。

Keiichiro Matsumura 2009 *Turning Wealth into Cash or Gift? : Negotiating Morality in Highland Ethiopia*. K. Sugimura (ed.), *Comparative Perspectives on Moral Economy: Africa and Southeast Africa. Proceedings on 3rd International Conference on Moral Economy of Africa*. Fukui Prefectural University, pp. 181-186.

松村圭一郎 2007 「所有と分配の力学：エチオピア西南部・農村社会の事例から」、『文化人類学』、72巻2号、141-164頁。

松村圭一郎 2007 「市場経済とモラル・エコノミー：『売却』と『分配』をめぐる相互行為の動態論」、『アフリカ研究』、70号、63-76頁。

Keiichiro Matsumura 2006 *Moral Economy as Emotional Interaction: Food Sharing and Reciprocity in Highland Ethiopia*. *African Studies Quarterly* 9, no.1 & 2.

Keiichiro Matsumura 2006 *Inter-ethnic Relationships in a Coffee-Growing Community: A Case Study of Gomma warada, Southwestern Ethiopia*. In Siegbert Uhlig (ed.), *Proceedings of the XVth International Conference of Ethiopian Studies*. Harrassowitz Verlag, pp.142-149.

松村圭一郎 2006 「土地の『利用』が『所有』をつくる：エチオピア西南部・農村社会における資源利用と土地所有」、『アフリカ研究』、68号、1-23頁。

〔学会発表〕（計 1 件）

松村圭一郎 2008 「分科会趣旨説明：＜経済＞の生態人類学－「アカウンタブルな社会」のための想像力」、日本文化人類学会第42回研究大会、京都大学。（2008年5月31日）

〔図書〕（計 3 件）

松村圭一郎 2008 『所有と分配の人類学－エチオピア農村社会の土地と富をめぐる力学』（世界思想社）（単著）

Keiichiro Matsumura 2008 *Moral Economy*

as Emotional Interaction: Food Sharing and Reciprocity in Highland Ethiopia. I. M. Kimambo, G. Hyden, S. Maghimbi and K. Sugimura (eds.), *Contemporary Perspectives on African Moral Economy*. Dar es Salaam University Press, pp. 139-152. (共著)

松村圭一郎 2007 「エチオピア高地世界の流動する民族間関係：コーヒー栽培の拡大をめぐる」、池谷和信・佐藤廉也・武内進一（編）『新世界地理 第11巻 アフリカⅠ：総説、イスラームアフリカ、エチオピア』（朝倉書店）、381-394頁。(共著)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松村圭一郎 (MATSUMURA KEIICHIRO)  
京都大学・大学院人間・環境学研究科・助教  
研究者番号：40402747

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者